

〔事物紀原八〕驅儺 禮緯曰、高陽有三子生而亡、去爲疫鬼、二居江水中爲瘧、一居人宮室區隅中、善驚小兒、於是以正歲十二月、命祀官時儺、以索室中、而驅疫鬼、軒轅本紀曰、東海渡索山有神荼鬱壘之神、以禦凶鬼、爲民除害、因制驅儺之神、子游鳥問於雄黃曰、今人逐疫出魁擊鼓呼噪、遂以出魁、黔首不知、黔首多疾、黃帝氏立巫咸使黔首鳴鼓振鐸以動心勞形、發陰陽之氣、擊鼓呼噪、遂以出魁、黔首不知、以爲崇魅也、或記以爲驅儺之事、按周禮有大儺、漢儀有振子、要之雖原始於黃帝、而大抵周之舊制也、周官歲終、命方相氏率百隸索室、驅疫以逐之、則驅儺之始也。

〔東京夢華錄十〕除夕、至除日禁中呈大儺儀、並用皇城親事官、諸班直戴假面、繡畫色衣、執金鎗龍旗、教坊使孟景初身品魁偉、貫金副金鍍銅甲裝、將軍用鎮殿將軍二人、亦介胄裝門神、教坊南河炭醜惡魁肥裝、判官又裝鍾馗、小妹土地竈神之類、共千餘人、自禁中驅祟出南薰門外、轉龍彎謂之埋祟而罷、

〔倭訓栞中編三十<sub>於前</sub>〕おにやらひ 儺を訓せり、鬼を逐ふ也、東京賦に、卒歲大儺、敵除群癟と見え、乞食のお歳末とてする事も、熙朝樂事に、丐者塗抹變形、裝成鬼形、叫跳驅儺、索乞利物といへり、又つななの下に見えたり、

〔倭訓栞前編十六<sub>都</sub>〕つゐな 追儺の音也、鬼逐をいふ類聚國史に、慶雲三年始作土牛大儺と見えたる、本は周家の禮也、我邦にては、大舍人寮鬼を勤め、陰陽寮祭文を讀、殿上人桃弓葦矢して射といへり、こは女官より獻と云圖抄に見ゆ、又儺主率辰子入仙花門とあり、桑弧蓬矢は西土の式也、さるを桑は扶桑國の意、蓬萊の意といふは、ト家の附會也、

〔倭訓栞前編十九<sub>那</sub>〕なやらふ 源氏にみゆ、儺のやらひ也、又なやらほんともはたらかしていへり、神代紀に、逐をやらふとよめり、今鬼やらひといへり、

〔古今要覽稿時令〕那 那續日本紀延喜式内裏式河海抄、按に那は儺の音なり、禮記月令の注にも、是なやらふともなやらひとともはたらかせていへり、年中